

## 第 4 回町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会 議事概要

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時  | 2024 年 8 月 21 日（火）15 時 00 分～17 時 00 分                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 場 所  | 町田市庁舎 4 階 記者会見室                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 出席者  | <b>【委 員】</b> （敬称略）<br>山口 有次（桜美林大学ビジネスマネジメント学群教授）<br>長尾 洋子（和光大学表現学部総合文化学科教授）<br>藤枝 由美子（玉川大学芸術学部アート・デザイン学科教授）<br>宗田 隆由（一般財団法人町田市文化・国際交流財団）<br>高野 宗佳（一般社団法人町田市文化協会）<br>佐藤 正志（町田商工会議所）<br>亀田 文生（一般社団法人町田市観光コンベンション協会）<br>大山 茂登（木曽中学校長）<br>百田 明弘（相原小学校校長）<br>（以上 9 名）<br>欠席：高橋 倫正（町田市郷土芸能協会）<br><b>【事務局】</b><br>文化振興課、山田課長、上林、佐藤、牧野、池内<br>文化振興スポーツ部 老沼部長<br>株式会社文化科学研究所（コンサル）<br><b>【傍聴人】</b><br>2 人 |
| 議事内容 | 1 検討状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>・検討スケジュールの見直し</li> <li>・事業者ヒアリング</li> <li>・他自治体との比較</li> </ul> 2 町田市の文化芸術について <ul style="list-style-type: none"> <li>・町田市の文化芸術の検討工程</li> <li>・町田市の文化芸術の特徴（中間報告）</li> </ul>                                                                                                                                                                    |
| 配布資料 | 資料 0_レジュメ_町田市文化芸術のまちづくり計画の検討状況. pdf<br>資料 1_（仮称）町田市文化芸術のまちづくり計画再検討スケジュール. pdf<br>資料 2-1_事業者ヒアリング調査結果（中間報告）. pdf<br>資料 2-2_近隣自治体との比較（施設、イベント等）. pdf<br>資料 2-3_全国の先進的な取組事例. pdf<br>資料 3-1_町田市の文化芸術の検討工程. pdf<br>資料 3-2_町田市の文化芸術の特徴（中間報告）. pdf<br>補助資料 4-1 町田駅周辺開発推進計画<br>補助資料 4-2 町田市都市集客機能整備方針                                                                                                   |

## ○事務局

今回の第 4 回懇談会では、前回 3 月の懇談会からの検討状況のご報告と、「町田市の文化芸術について」と題して事業者の方々にヒアリングを行った中間報告をさせていただきますので、それを受けて皆さんからご意見をいただければと思っております。

では次第に沿って進行したいと思います。山口委員長に司会進行をお願いいたします。

## ○山口委員長

では次第の 1 番の「検討状況」について、検討スケジュールの見直しと事業者ヒアリングまでを前半、他自治体との比較を後半として進行します。

## 1 検討状況について

### ・検討スケジュールの見直し

(資料 1 (仮称) 町田市文化芸術のまちづくり計画再検討スケジュールについて) 事務局より説明

### ・事業者ヒアリング

(資料 2-1 事業者ヒアリング調査結果 (中間報告) について) 事務局より説明

#### ○山口委員長

以上を踏まえて、検討スケジュール見直しの件と事業者ヒアリングの 2 点についてご意見がありましたらお願いします。

#### ○宗田委員

スケジュールを 1 年延長したことで、見直していくべきポイント、深めていきたいポイントがあればお知らせください。

#### ○事務局

去年の骨子はおしなべて総花的な印象があり「これを町田の文化として推進していきたい」という熱意や 10 年後を見越した視点が足りないというご意見をいただきました。そのため、現状分析をすることにより、現時点では知名度がなくとも 10 年後に有名になるような強みを見つけていきたいと考えています。一例として、10 年前は認知度が低かったブレイキンがオリンピック競技となって市民権を得たように、将来的に花開くものを町田から発信していきたいと思います。一方で、ジャンルにとらわれるものではなく、方法論も含めて町田オリジナルな強みを見いだせればと考えています。

#### ○宗田委員

町田市でも子どもたちが市民ホール等でダンス活動をしています、そういったものから十年後に著名になりうるものを見つけていくということでしょうか。

#### ○事務局

そのとおりです。ただ、新しいものを探すだけではなく、今活動されているものについて、形を変えて発信していくことも必要だと考えています。

#### ○山口委員長

事務局からの説明は、総花的な印象を与える整理を再考し、資源を見直すことによって突出した部分をクローズアップすることもありうるという話であったと理解します。

#### ○長尾委員

計画のスケジュールが延びて完成像もある程度変わるとは思われますが、ヒアリングもこれからまだ続くでしょうから、抽出した情報をもとにもっと深めていけると良いと感じました。

#### ○山口委員長

他にご意見いかがでしょうか。ではこのスケジュールで、資源をより活かす形でクローズアップしながら計画を推敲していきたいと思います。続きまして、他の自治体との比較について事務局から報告をお願いします。

## ・他自治体との比較

(資料 2-2 近隣自治体との比較、資料 2-3\_全国の先進的な取組事例について) 事務局より説明

○山口委員長

この資料についてご意見をお願いします。

○藤枝委員

10 個の先進的な取り組み事例を選定するうえでの基準を教えてください。

○事務局

あえて基準は絞らずに、ジャンルや方法論を含め多様な事例を収集しています。

○藤枝委員

多様性が見えてくるような事例ということですね。

○山口委員長

事例を総括することで「キーマン」というキーワードが出てきていますね。

○事務局

キーマンが存在し、行政と連携して事業を行うことが重要だと考えています。

○山口委員長

キーマンが事業を提案した際に予算を獲得できるかも重要だと思います。これらの先進事例では最初のスタート時点から行政の予算がついているのでしょうか。

○事務局

開始時点では補助金を利用していた事業もありますし、行政と連携して戦略的に進めている事例では市の財政規模に対して小さくない投資をしている場合もあります。目先の収益だけではなく経済効果や全体的な効果まで見越して予算を組むことが理想的だと考えます。

○亀田委員

成功の基準には「人を集める」という視点も必要だと思います。この成功事例には、事業で集まった人の規模や属性についての視点が不足しています。たとえば事例 9 の「学校アウトリーチ向けのプラットフォーム構築」では何が得られたのでしょうか。

○事務局

予算規模の資料は集めてはいますが、経済効果については不足しておりました。人を集める視点は重要だと考え、「にぎわい」という言葉を計画にも使っております。一方で、一過性のイベントによる集客ではなく、継続して人が訪れる仕掛けづくりが必要になると思います。

○亀田委員

継続は重要ですね。集客効果も含めて成功事例と考えたときに、事例 9 はどのような部分を「成功」と捉えられているのでしょうか。学校でアート教育を受けた子どもたちが成長して町田に戻り、人を集めることに寄与できてはじめて、それで文化を振興した結果が循環して返ってくる。これをもって初めて「成功」と言えるのではないのでしょうか。

○事務局

一元的に直接的な効果が見えにくい部分ですので、表現が難しいところです。

○亀田委員

今後の議論ではアウトカムまで見据えていく必要があると思います。

○事務局

集客効果だけではなく、文化芸術を大事にする街に住んでいるというシビックプライドもアウトカムとして見据えていきたいと思っています。

○宗田委員

10 個の先進事例をどのように町田市目標と関連付けているか教えてください。これらの先進事例そのもののような事業を作っていきたいのか、事例の共通項目である冒頭の 4 項目を取り入れた特徴的な事業を 10 年後に新たにつくるのか、「キラリ☆まちだ祭」のような既存事業について、先進事例を参考に特徴的な事業を育てようとしているのか、方向性が見えにくいと感じます。

またキーマンありきではなく、町田市として「この方向性に舵を切るために予算を投じる」という方針を示す必要があると思います。スポーツはある程度投資して成果が見えてきたので、次は文化芸術ではないかと思っています。

○事務局

前半のご質問については、この 10 個の事例は先進事例そのものの姿を目指すためではなく、どういった先進事例があるか、どういう共通項があるのかを探るために事例を検討しているものです。町田の文化芸術として推進していくべきジャンルの方向性が定まってから、あらためてそのジャンルの成功事例を検討する予定です。

○宗田委員

例えば札幌市の YOSAKOI ソーラン祭りは、個人・民間団体・実行委員会がスタートして全国的に人気が出て経済効果も出ていますが、そういったものを探していくというイメージですか。

○事務局

にぎわい創出や駅前再開発を考えると、表現イベントやソフト事業のような方向が向いているという認識はあります。現状では明確な分野やイベントの形式等は定まっていません。

○山口委員長

現状では認知度が低く、将来的に著名になるかがわからないものに予算と行政の労力を割くという場合には、ある種のチャレンジとして覚悟をもって進めるという町田市全体の自覚が必要となります。

事例については、各事例から得られた知見を強調して整理していただくのか、読み取りに留めておくのかは事務局におまかせします。

他になければ本日の 2 番目の議題に移りたいと思います。事務局からご説明をお願いします。

## 2 町田市の文化芸術について

### ・町田市の文化芸術の検討工程

(資料 3-1 町田市の文化芸術の検討工程) 事務局より説明

### ・町田市の文化芸術の特徴 (中間報告)

(資料 3-2 町田市の文化芸術の特徴 (中間報告)) 事務局より説明

(補助資料 4-1 町田駅周辺開発推進計画、4-2 町田市都市集客機能整備方針) 事務局より説明

○山口委員長

ありがとうございます。ではご自由にご発言ください。

○宗田委員

二点申し上げます。一点目は中間報告書の生活文化についてです。生活文化に月例茶会と記載がありますが、月例茶会だけでなくその他にも茶道会には多様な活動があることを手厚く記述してはどうでしょうか。小学校に出向いての講座や市民文化祭など、市民と接する機会を多く作っているという書きぶりにすると良いのではないのでしょうか。落語についても普及活動をしている団体の尽力があるからこそ一流の落語家さんが来てくださるという視点もあります。最近が高齢者施設等での落語の集客もよく、日頃の伝統芸能の普及活動が根付いてきている成果を感じます。そういった視点も含めて記載していただきたいと思います。

二点目、2000 人規模のホールについて、現状では 862 名規模の町田市民ホール、300 名規模のポプリホールがありますが、市民レベルの発表会については 300 人規模の施設のほうが、稼働率が高いという実情があります。中心市街地の駅前には 2000 人規模のホールが必要だとしても、町田市全体で考えたときには大中小の、規模に応じた会場が必要だという視点を入れていただきたいと思います。

○山口委員長

数百名の規模のホールですと桜美林大学のホールなどもあり、既存の施設も有効活用できます。既存の施設を活用しながらも無い施設については補充していくという考え方は一貫しています。

○高野委員

桜美林芸術文化ホールは町田市文化協会でも周知活動に協力させていただいていますが、地理的に難しいというご意見もあります。町田市と連携してもう少し安価で利用できるようになるなど、市がバックアップすることで活用も広がると思います。

○山口委員長

補助の必要性があるということでしょうか。

○高野委員

そうです。町田市全体で文化を応援しようという方針を打ち出すことが望ましいと考えます。先日ミュージア川崎を視察してきましたが、非常に素晴らしいものでした。町田市にも良いホールがあるということがこれからの文化芸術振興には必要だと思います。また、博物館と版画美術館は町田市の持つ誇りですので、大いに活用していただきたいです。

#### ○亀田委員

それぞれ興味のある人はその場所へ訪れるでしょうが、興味を十分に持っていないがなにか楽しそうだなと思って訪れる人が増えるような、ストーリー性が大切だと考えます。

例えば、田端環状積石遺構は、一見すると石が置いてあるだけです。専門外の人にはわかりづらいですし、知らない人は訪れません。人に興味をもたせ、訪ねてもらうためにはストーリー性が重要です。遺跡の特徴や縄文時代の人々の服装や生活が伝わるようなストーリーを見せることで初めて興味をもってもらえると思います。博物館や版画美術館の設立経緯も「版画は収集しやすく、特化した美術館を作りやすかった」「工芸品は価格が安く市の財政レベル的にも合っていた」という記述ではストーリー性に欠けます。理由がなければ一般の方には受け入れられないので、まずは特徴の部分に「なぜそこにあるのか」というストーリー性を持たせていただきたいです。

#### ○山口委員長

観光だけではなく、文化の中にも物語をきちんと作っていったストーリーをアピールしていくことが必要だと理解しました。

#### ○藤枝委員

資料 3-2 の中間現状分析の（１）で「版画・工芸、生活文化、縄文時代の遺跡」を挙げられているのは、非常に良い方向性が出たと感じました。縄文時代は人を殺めるための武器が見つかっておらず、一万年以上も平和が続いた世界に類を見ない時代だったと考えられています。その価値をもっと再評価してもいいのではないのでしょうか。縄文土器も昔の生活のアートですから、人々が長く平和に暮らした土地で、現在も版画・工芸や生活文化という生活になじんだアートがあるというストーリーはつながるものがあると感じます。

町田の版画や工芸、生活文化の素晴らしさを際立たせるためには、外の視点を入れることも必要です。日本人は海外で評価されたものを再評価する傾向がありますので、町田で新しい事業を行う際には外国人にしっかりと評価される、外国人の観光客がたくさん来ることをゴールにするとよいと考えます。外国人に評価されることで、日本人も町田の住民自身も町田の魅力を再評価するという結果につながると思います。

また、将来的に成功するかどうかではなく、我々が何を町田の文化として押し出していきたいかという点を重視するべきです。いま既に存在する文化で、我々が推したいと思う文化を大事にするということに失敗はありません。たとえば縄文時代の人々が長く幸せに生きた時代と町田のイメージをつなげることができたら、住んでいる我々もそれを誇りに思うことができます。

#### ○山口委員長

町田には普通の生活の中に築かれた豊かさがあるという視点で、外国人からの評価を得ることを目指すということですね。重要なご意見であると認識しました。

#### ○長尾委員

町田の普通の生活の中に光るものがあるという押し出し方は、非常に希望のある、大事な方向性だと思います。

本計画は「町田市文化芸術のまちづくり計画」という名称ですが、文化芸術の振興は必ずしも経済的な利益・集客につながるトピックではないので、「まちづくり」と「文化芸術の振興」を区別してその関係性を意識しながら議論する必要があると考えます。まちづくりには「経済的効果につながるにぎわいづくり」と、「町田で生活・活動している人が活力や充実感を持てるまちづくり」という2つの考え方があります。さきほど話題に上がった事例 9 の「学校アウトリーチ向けのプラットフォーム

ーム構築」はまちづくりの中でも活力を養うタイプのもので、必ずしも経済的な効果はなくても文化芸術の振興という意味では達成度が高い事業だと評価します。まちづくりの経済的な面と社会的な面を整理することで、その両面を同時に推進していくのか、どちらかに重点を置くのか、どちらに早く着手するのかという議論も可能になるのではないのでしょうか。

○山口委員長

経済的な視点と社会的な視点の両方が必要というのはおっしゃるとおりです。今後の議論でも留意していきましょう。事務局は資料を整理していくうえで意識してください。

○百田委員

田端環状積石遺構の付近にある小山小学校では、子ども達と地域の方が一緒に遺構で夕日を見するという活動を実施していたと聞きました。過去にはひなた村の縄文体験でもフェイスペインティングを小学校6年生が体験していました。子どもが集まるようなアプローチも良いのではないのでしょうか。

一方で、事業が大きくなりすぎることデメリットが出てくる可能性に留意する必要があります。町田 GION スタジアムは町田ゼルビアを中心に盛り上がってきたことで、スタジアムの役割が変わってきたとも感じます。町田市小学生連合体育大会はこれまで町田 GION スタジアムで開催していたのですが、今年はバス代の高騰やスタジアム日程調整の関係もあり開催できなくなりました。町田市小学校連合音楽会も町田市民ホールで実施していますが、2000人規模の施設が完成したら一同に会せるという良さがある一方で、費用など別の要素で開催の機会が失われることになっては本末転倒です。

また、文化庁の事業を利用して音楽座の「リトルプリンス」の学校巡回公演を実施していますが、地元にある劇団には国の事業ではなく市を介した別の活用方法があると思います。本校では劇団四季の「こころの劇場」という全国事業を利用して小学6年生を対象にした鑑賞教室を実施しており、こういった鑑賞教室を音楽座が町田市民ホールで定期的・継続的に開催できるような仕組みがあると良いという声が学校関係者から多く上がっています。

○山口委員長

観光分野でもストーリーを重視していますが、文化の分野でストーリーを作っていくことは非常に重要です。既存のものをそのまま「ストーリー」とするのではなく、本当の意味でのストーリーを作っていくってほしいと感じます。

○大山委員

田端環状積石遺構は著名な遺跡にもかかわらず、私有地の一角のような雰囲気立ち入りづらいため改善の余地があると感じます。木曽中学校にも遺跡がありますが、校長として赴任した際には正確な位置等がわからない状態でした。町田市は随所に縄文時代の遺跡があるので、遺跡の位置やストーリーを案内する施設を作り、訪れた人が町田の遺跡の価値を再認識できると良いと思います。

事例9の「学校アウトリーチ向けのプラットフォーム構築」に関しては、経済的効果は見えづらくとも、体験した子どもたちが将来的にその分野に興味を持ったり、職業についたりすることはあります。東京都の「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」事業でも、文化的な分野を含む著名人を招いて体験授業を実施しています。子どもたちが文化に触れる機会を作ることは未来に繋がっていくという点で非常に重要ですので、文化教育に力を入れることは町田市にとってひとつの象徴になりうると思います。また、ホールがあることで町田市に様々なアイデアや色んなものが生まれるのではないのでしょうか。大きい小さい、色々用途はあるでしょうが、呼び込んで育てることが大切であろうと思います。そこで行われる舞台や音楽活動と学校での活動が連携できると市全体として盛り上がってい

くと感じます。

○山口委員長

ひとつひとつの文化的要素にストーリーを盛り込み、町田市全体のバックグラウンドストーリーと個々の物語が連携しあって全体が手厚くなるということが重要ですね。

○佐藤委員

文化芸術の検討工程にある市民意識調査・文化芸術活動に関する団体アンケート・子どもセンタースキ取り調査・事業者ヒアリングなどを分析し、市民や団体・事業者からどのような希望が多く出ているのかをまとめたものを9月にご提示いただきたいです。

駅周辺開発計画の中にも箱物や境川のせせらぎの件など、文化芸術を含めたことがイメージできる部分がたくさんあります。町田市の方でもタテではなくヨコで計画を検討し、開発計画セクションの担当部署の方がここに来て説明を共有していただいたうえで全体の検討をするのが懇談会の役割になるのではないかと思います。

○事務局

次回までに現状分析や経過、周辺のまちづくり計画も含めて、まとめてわかるような資料を提示させていただきますと思います。

本日の議論、そしてヒアリングのなかでもわかりやすいストーリーが必要だというご意見をいただいております。藤枝委員の「外国人の視点を意識する」というお話では、日本人にとっては当たり前のことも外国人の方にわかるよう書き込むことで、日本人自身にも新たな気付きのあるものにするのが良いと思いました。亀田委員のご指摘にあったように、博物館や版画美術館の設立経緯についても、ストーリーを表現していくことが大事だと感じました。

○山口委員長

これまでの経緯や発足時の議論を踏まえて、多様な対象へと「文化」の枠を広げていったことがこの懇談会の非常に重要な特徴だと私自身は考えております。いわゆる芸術だけではない、広い範囲のものを「文化」と捉えることが重要であるという部分がもうまく伝わっていないとしたら、それは表現の問題だと思いますので改めて強調してまいります。

また、小学校等で子どもの文化教育、インキュベーション（子を育てる機能）の重要性を意識させられました。日常生活の中で町田の生活文化を体験していくことが児童の将来につながり、また文化を身近に感じられる生活を外国人の方にも評価されるよう表現していくことが魅力的な街につながると感じます。「まちづくり計画」という言葉には多様な解釈がありうるので、今後の議論の中で精査していきましょう。

○宗田委員

本年6月から当財団では、文化振興課の協力を得て「まちだアーティストバンク」を立ち上げています。町田市にゆかりのあるアーティストを募集したところ、6月の開始時から8月までの2ヶ月で約90件の登録が集まりました。プロ・アマ問わずパフォーマーの方やクラシックの方など、多様なジャンルがあり、これは町田の大きな資源です。また、当財団では「ふれあい落語」という落語のアウトリーチ活動をしています。これは真打ちに上る前の二ツ目さんが各市民センターに出向いて出

張落語をする会で、2008 年から既に 60 回ほど開催しております。日頃都市部に出られない方が身近で落語に触れられるというのは、町田市の「生活」と言えるかもしれません。そういった土壌も資料で触れていただいてはどうかと思います。

○山口委員長

ありがとうございます。時間になりましたので議論はここまでとさせていただきます。事務局からお願いします。

○事務局

活発な議論をありがとうございます。最後に、事務局から 2 点ご案内をさせていただきます。

○事務局

1 点目、お手元に次回の懇談会の日程についてのアンケートを配布しております。10 月中旬から 11 月中旬の間に 1 時間半の枠で開催したいと思いますので、ご回答を 8 月 30 日頃までにメール等でお願ひします。

2 点目、この会議は公開ですので、議事録は資料とともにホームページで公開します。議事録案を 9 月下旬頃に皆様にメール等でお送りしますので、ご確認をよろしくお願いいたします。

○事務局

以上をもちまして、第 4 回町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会を終了します。本日はありがとうございました。

以上